

「豪雨災害に関する意識」についてのアンケート結果

県では、“どのような洪水にあっても人命が失われることを避ける”ことや“生活再建が困難となる被害を避ける”ことを目的に、流域治水対策として河川整備や維持管理などの「ながす」対策をはじめ、水害に「そなえる」対策、被害を最小限に「とどめる」対策を県民の皆さんと協働で取り組んでいます。

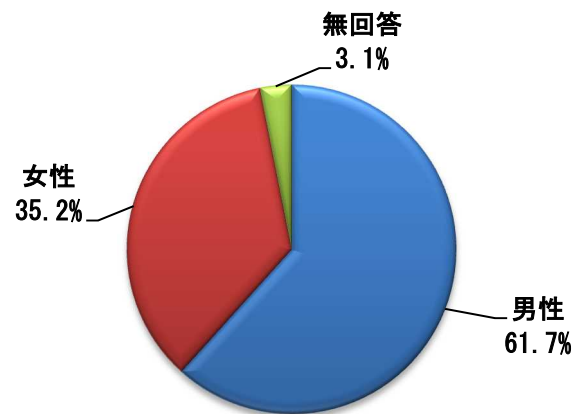
県民のみなさんの豪雨災害に関する認知度を把握し、今後の施策検討の参考としたいので、アンケート調査を実施しました。

- ★調査時期：令和元年10月
- ★対象者：県政モニター 399人
- ★回答数：358人（回収率89.7%）
- ★担当課：土木交通部 流域政策局 流域治水政策室

（※四捨五入により割合の合計が100%にならない場合があります。）

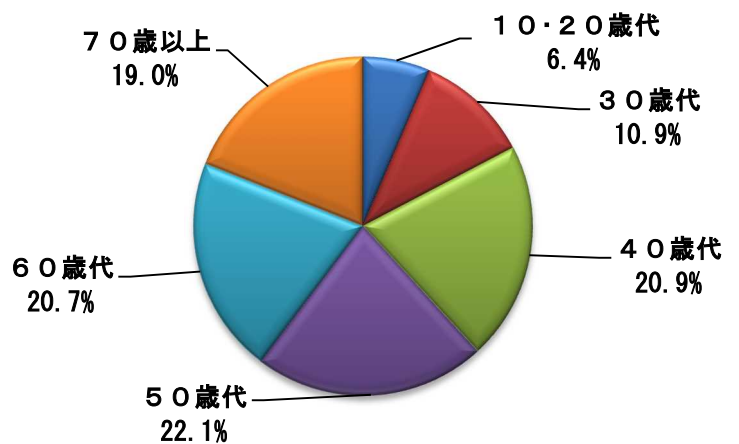
◆性別

項目	人数(人)	割合(%)
男性	221	61.7
女性	126	35.2
無回答	11	3.1
合計	358	100.0



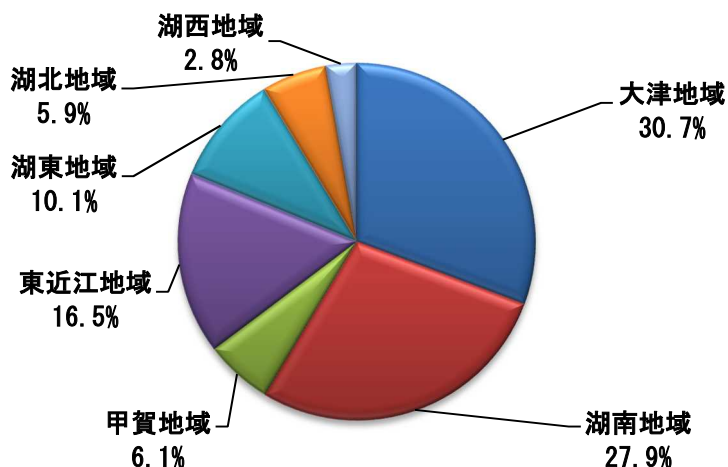
◆年代

項目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	23	6.4
30歳代	39	10.9
40歳代	75	20.9
50歳代	79	22.1
60歳代	74	20.7
70歳以上	68	19.0
合計	358	100.0



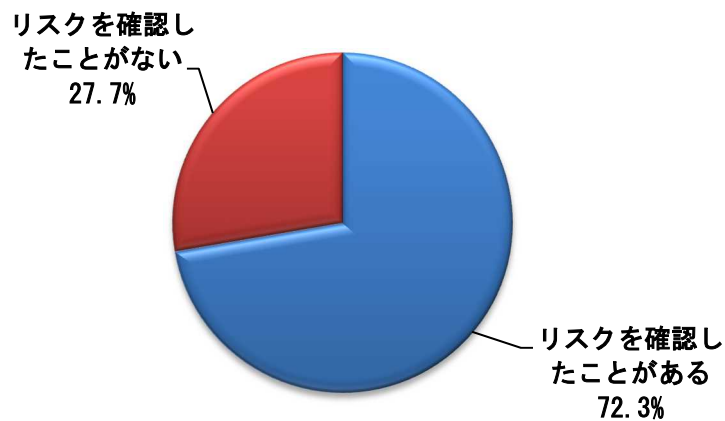
◆地域

項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	110	30.7
湖南地域	100	27.9
甲賀地域	22	6.1
東近江地域	59	16.5
湖東地域	36	10.1
湖北地域	21	5.9
湖西地域	10	2.8
合計	358	100.0



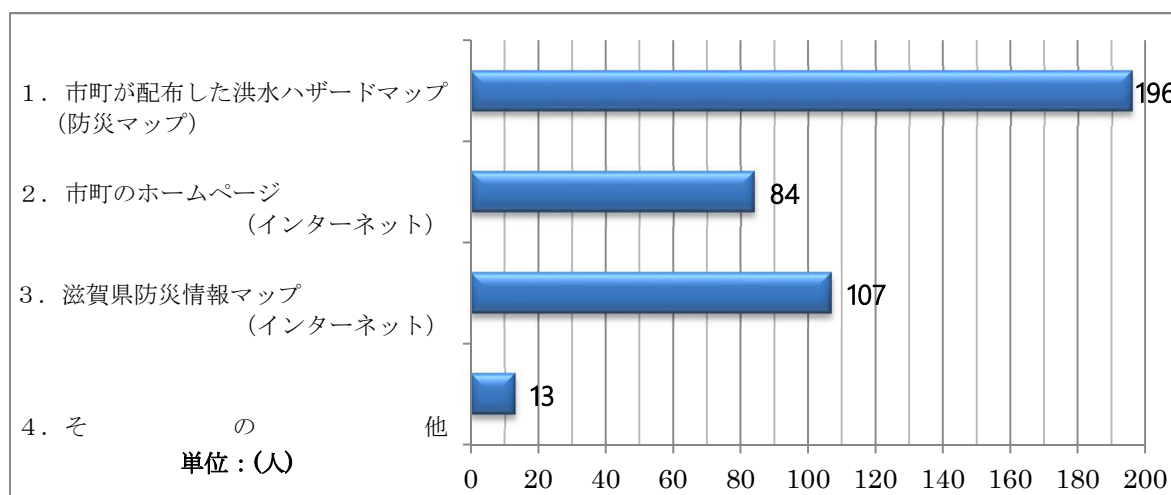
問1 近年、全国各地で水害や土砂災害が毎年発生しており、報道等により事前にリスクを確認するよう広報されていますが、あなたは御自宅のリスクを確認したことがありますか。(回答チェックは1つだけ n=358)

項目	人数(人)	割合(%)
リスクを確認したことがある	259	72.3
リスクを確認したことがない	99	27.7
合計	358	100.0



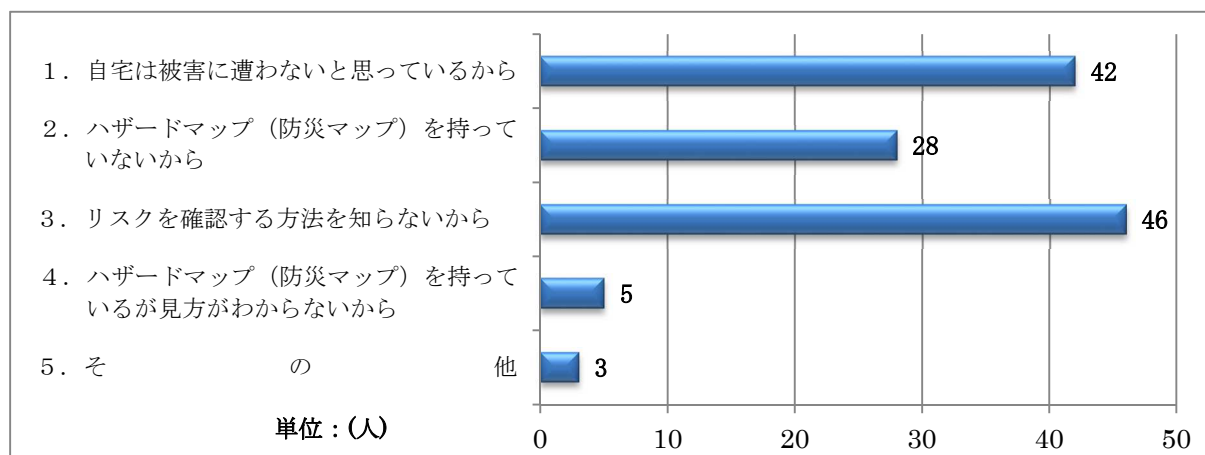
問2 問1で「1. リスクを確認したことがある」と回答された方にお聞きします。
それはどのような方法で確認しましたか。(回答チェックはいくつでも n=259)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 市町が配布した洪水ハザードマップ(防災マップ)	196	75.7
2. 市町のホームページ(インターネット)	84	32.4
3. 滋賀県防災情報マップ(インターネット)	107	41.3
4. その他	13	5.0



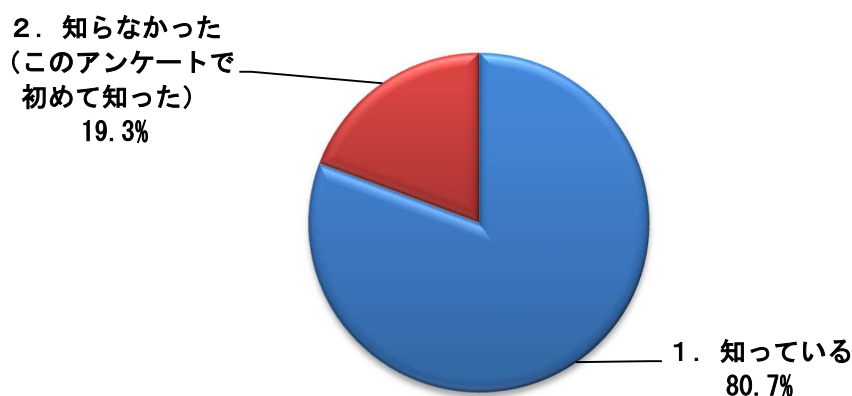
問3 問1で「2. リスクを確認したことがない」と回答された方にお聞きします。
自宅のリスクを確認しない理由は何ですか。(回答チェックはいくつでも n=99)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 自宅は被害に遭わないと思っているから	42	42.4
2. ハザードマップ(防災マップ)を持っていないから	28	28.3
3. リスクを確認する方法を知らないから	46	46.5
4. ハザードマップ(防災マップ)を持っているが見方がわからないから	5	5.1
5. その他	3	3.0



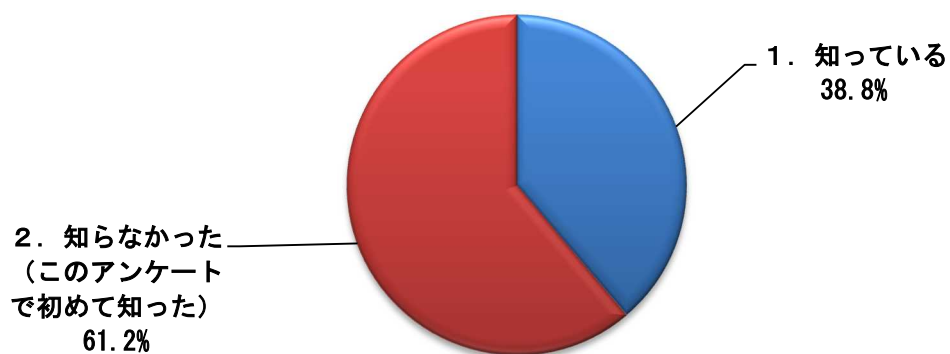
問4 浸水する原因は大きな河川の氾濫による浸水（外水氾濫）以外に、用排水路や小さな河川の氾濫により浸水（内水氾濫）する場合がありますか。
（回答チェックは1つだけ n=358）

項目	人数(人)	割合(%)
1. 知っている	289	80.7
2. 知らなかった（このアンケートで初めて知った）	69	19.3
合計	358	100.0



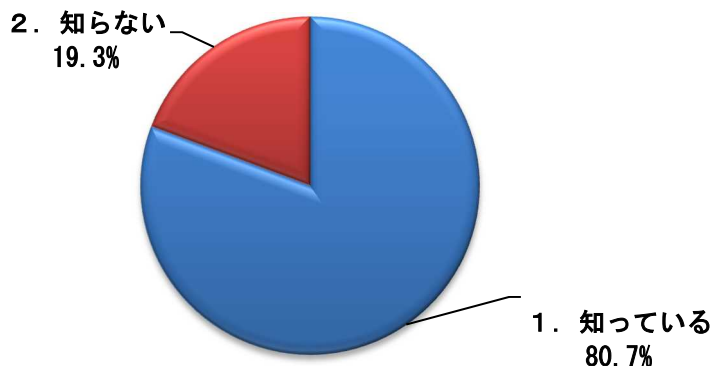
問5 滋賀県では、大きな河川の氾濫だけではなく身近な水路や小河川の氾濫も含めた「地先の安全度マップ」という水害リスク図を公表しています。あなたは、「地先の安全度マップ」を知っていますか。（回答チェックは1つだけ n=358）

項目	人数(人)	割合(%)
1. 知っている	139	38.8
2. 知らなかった（このアンケートで初めて知った）	219	61.2
合計	358	100.0



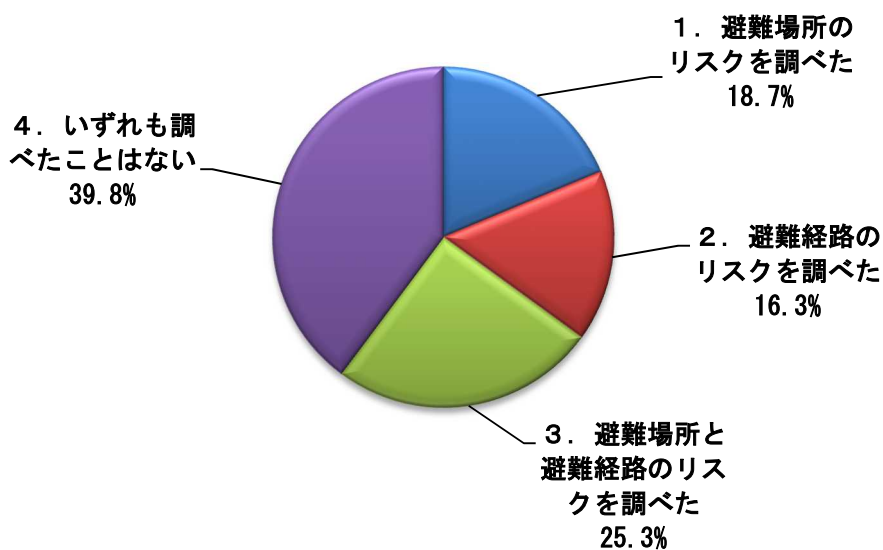
問6 あなたは、豪雨災害が発生した場合に市町が指定する避難場所を知っていますか。(回答チェックは1つだけ n=358)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 知っている	289	80.7
2. 知らない	69	19.3
合計	358	100.0



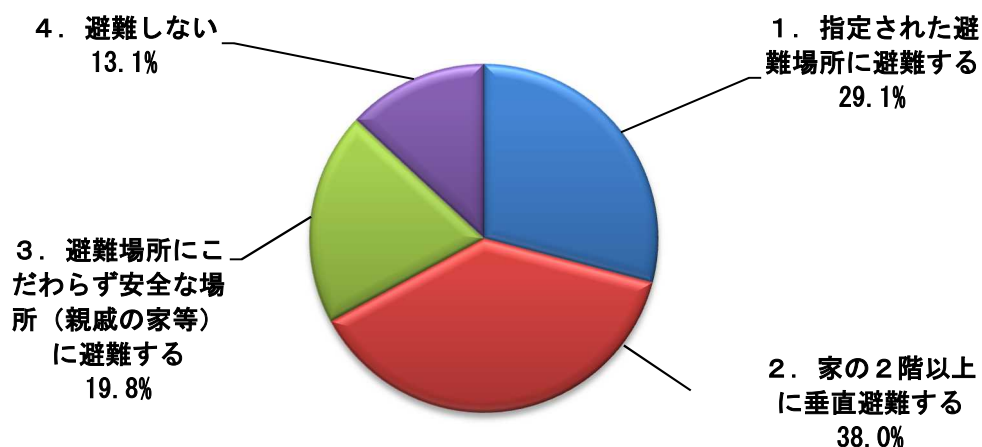
問7 問6で「1. 知っている」と回答された方にお聞きします。避難場所や避難場所へ行く経路のリスクを調べたことがありますか。(回答チェックは1つだけ n=289)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 避難場所のリスクを調べた	54	18.7
2. 避難経路のリスクを調べた	47	16.3
3. 避難場所と避難経路のリスクを調べた	73	25.3
4. いずれも調べたことはない	115	39.8
合計	289	100.0



問8 豪雨により自分の周りで水害や土砂災害の危険性が高くなってきた場合、どのような行動をとると思いますか。この中からあなたのお考えに最も近いものを選んでください。(回答チェックは1つだけ n=358)

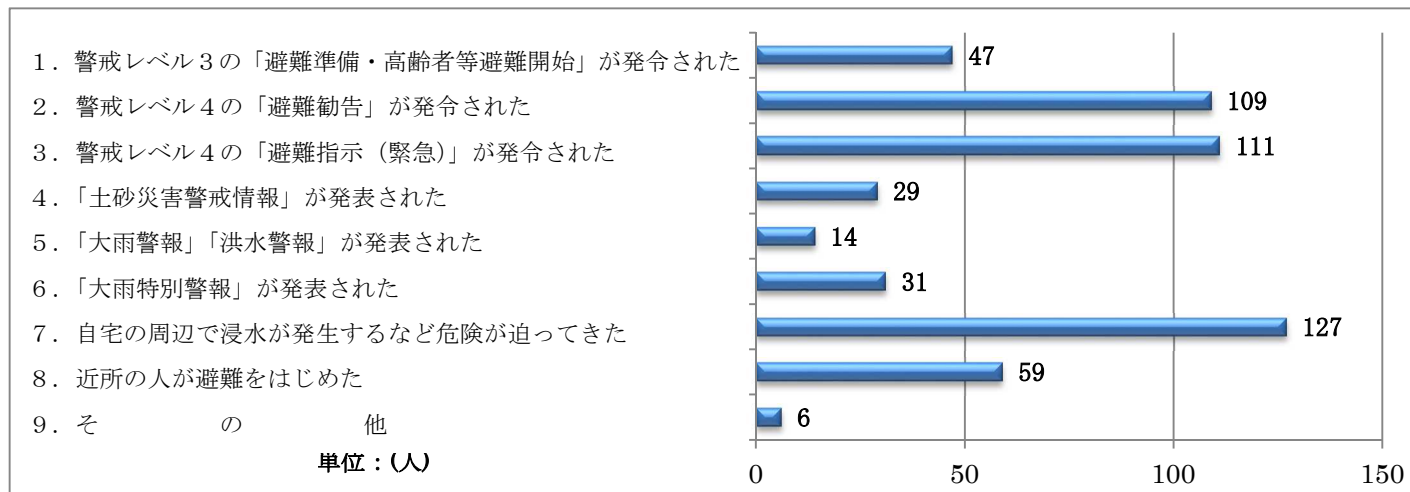
項目	人数(人)	割合(%)
1. 指定された避難所に避難する	104	29.1
2. 家の2階以上に垂直避難する	136	38.0
3. 避難場所にこだわらず安全な場所(親戚の家等)に避難する	71	19.8
4. 避難しない	47	13.1
合計	358	100.0



問9 問8で「1. 指定された避難場所に避難する」「2. 家の2階以上に垂直避難する」「3. 避難場所にこだわらず安全な場所（親戚の家等）に避難する」と回答された方にお聞きします。

避難を開始するタイミングはいつですか。あなたのお考えに最も近いものを選んでください。（回答チェックはいくつでも n=311）

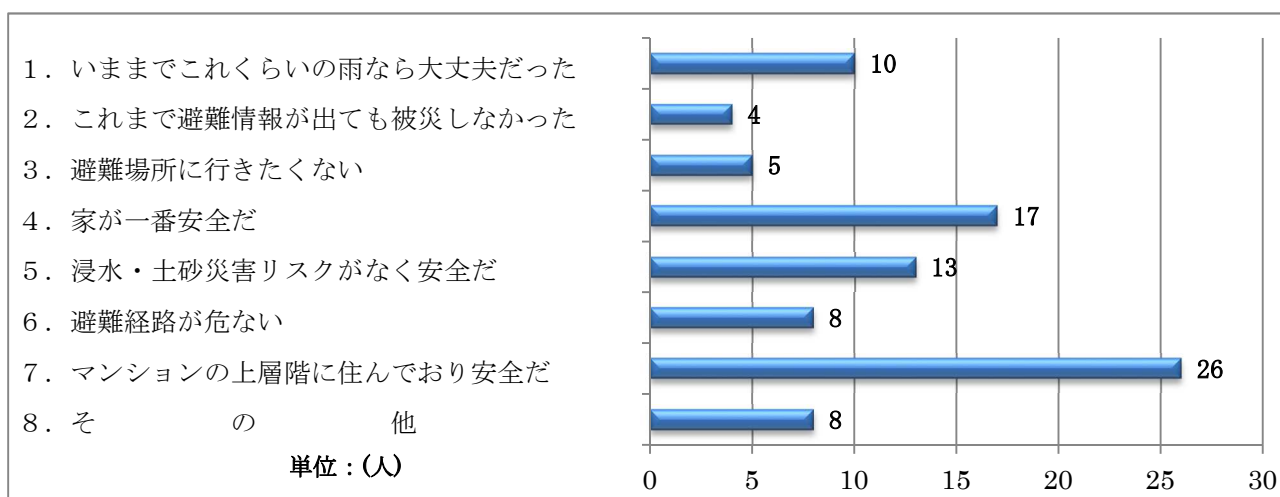
項目	人数(人)	割合(%)
1. 警戒レベル3の「避難準備・高齢者等避難開始」が発令された	47	15.1
2. 警戒レベル4の「避難勧告」が発令された	109	35.0
3. 警戒レベル4の「避難指示（緊急）」が発令された	111	35.7
4. 「土砂災害警戒情報」が発表された（警戒レベル4相当情報）	29	9.3
5. 「大雨警報」「洪水警報」が発表された（警戒レベル3相当情報）	14	4.5
6. 「大雨特別警報」が発表された（警戒レベル5相当情報）	31	10.0
7. 自宅の周辺で浸水が発生するなど危険が迫ってきた	127	40.8
8. 近所の人が避難をはじめた	59	19.0
9. その他	6	1.9



問10 問8で「4. 避難しない」を選択された方にお聞きします。避難しない理由は
何ですか。あなたのお考えに最も近いものを選んでください。

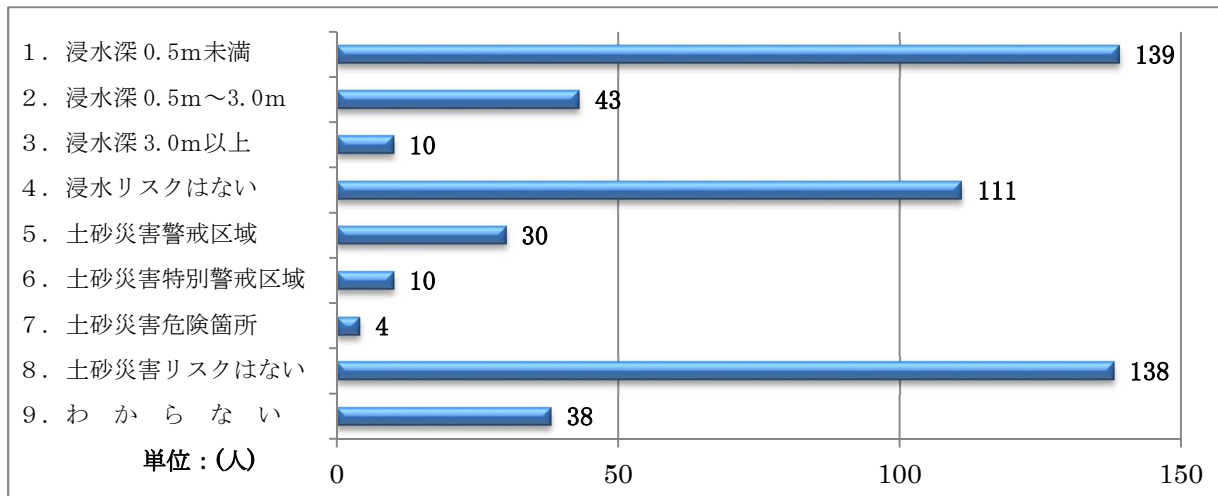
(回答チェックはいくつでも n=47)

項目	人数(人)	割合(%)
1. いままでこれくらいの雨なら大丈夫だった	10	21.3
2. これまで避難情報が出ても被災しなかった	4	8.5
3. 避難場所に行きたくない	5	10.6
4. 家が一番安全だ	17	36.2
5. 浸水・土砂災害リスクがなく安全だ	13	27.7
6. 避難経路が危ない	8	17.0
7. マンションの上層階に住んでおり安全だ	26	55.3
8. その他	8	17.0



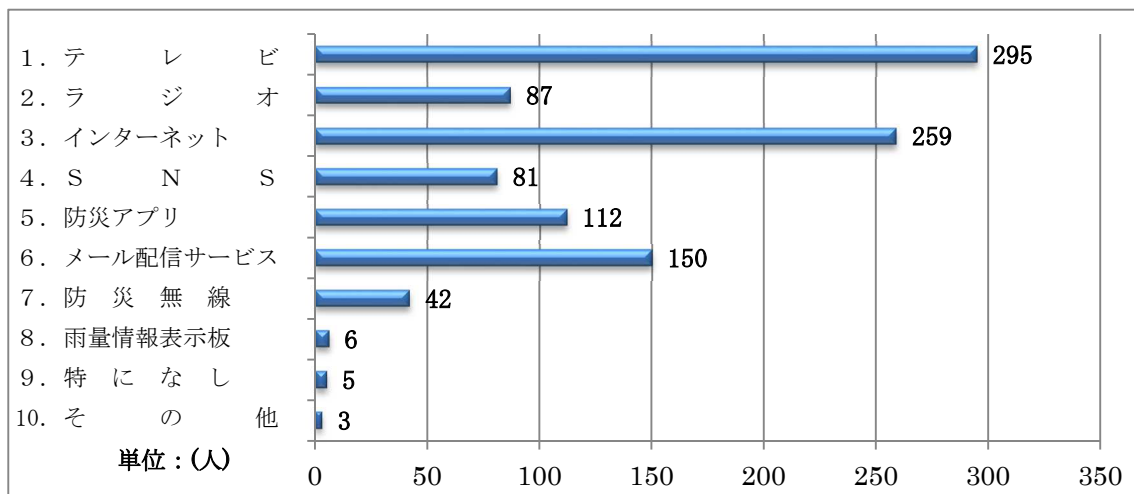
問11 問1、問7の補足として、下記URLの滋賀県防災情報マップで、御自宅の浸水リスク、土砂災害リスクをお調べいただき、御回答をお願いします。(地図を拡大いただき、画面左の凡例を参考にしてください) 御自宅の浸水リスク、土砂災害リスクはどれに該当しますか。(回答チェックはいくつでも n=358)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 浸水リスクは浸水深 0.5m未満である(床下浸水)	139	38.8
2. 浸水リスクは浸水深 0.5m~3.0m未満である(床上浸水)	43	12.0
3. 浸水リスクは浸水深 3.0m以上である(2階浸水)	10	2.8
4. 浸水リスクはない	111	31.0
5. 土砂災害警戒区域(指定済:黄色、指定前:緑色)に該当する	30	8.4
6. 土砂災害特別警戒区域(指定済:赤色、指定前:青色)に該当する	10	2.8
7. 土砂災害危険箇所(指定済)に該当する	4	1.1
8. 土砂災害のリスクはない	138	38.5
9. わからない	38	10.6



問 12 豪雨災害時の情報取得手段としてよく活用しているものを教えてください。
(回答チェックはいくつでも n=358)

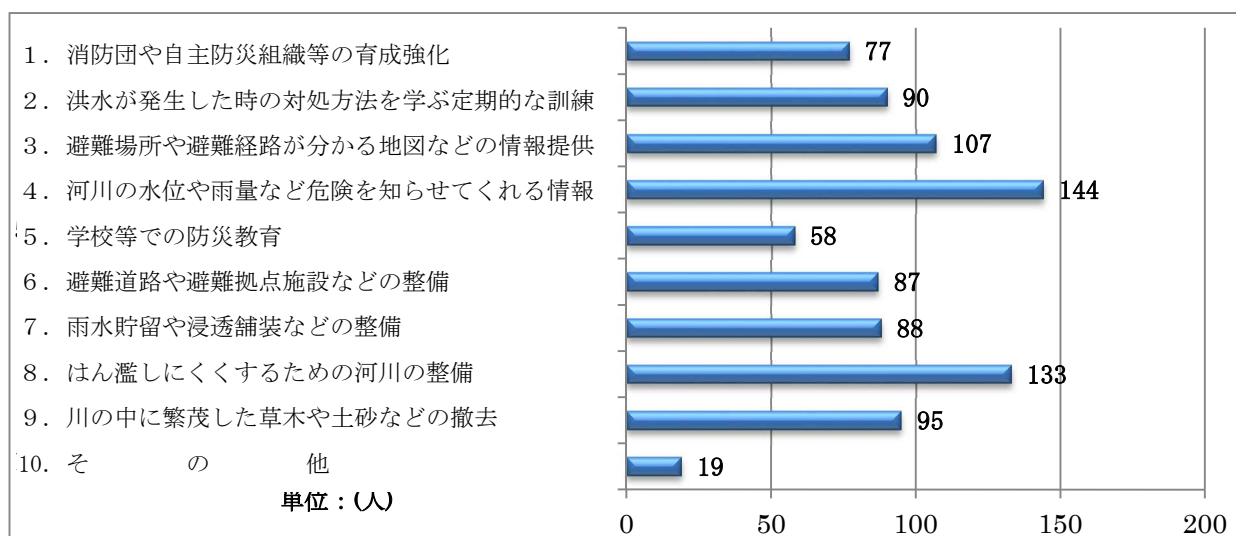
項目	人数(人)	割合(%)
1. テレビ	295	82.4
2. ラジオ	87	24.3
3. インターネット (web サイト閲覧)	259	72.3
4. SNS (ツイッター、フェイスブック等)	81	22.6
5. 防災アプリ	112	31.3
6. メール配信サービス (しらかがメール、市町のメール配信サービス)	150	41.9
7. 防災無線	42	11.7
8. 道路沿いなどにある雨量情報表示板	6	1.7
9. 特になし	5	1.4
10. その他	3	0.8



問 13 洪水から命や財産を守るため、あなたは県や市町の行政に対してどのような取り組みを望めますか。重視して進めるべきと考えるものを選んでください。

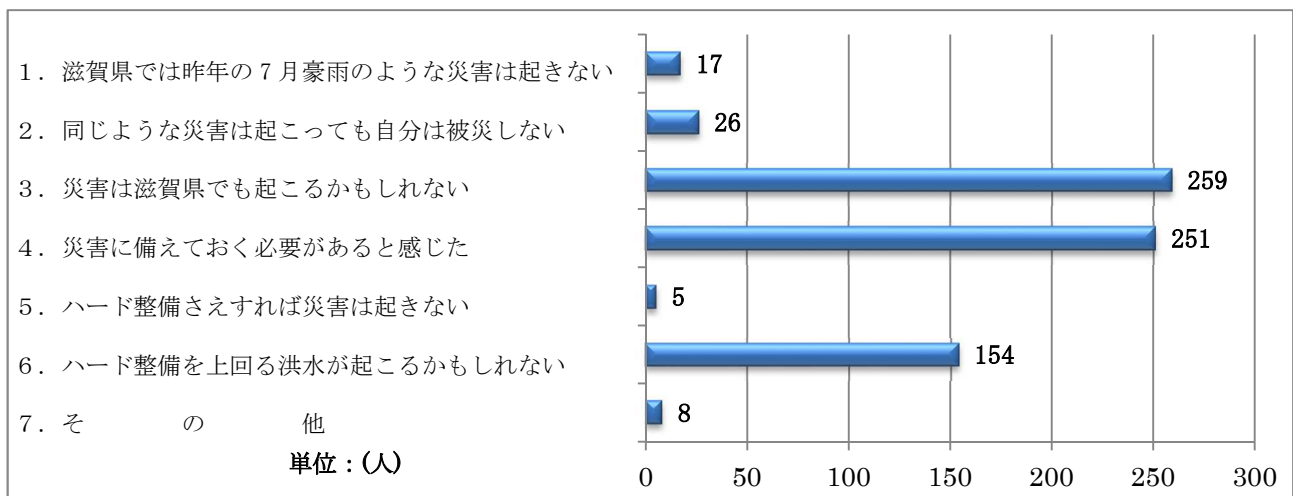
(回答チェックは3つまで n=358)

項 目	人数(人)	割合(%)
1. 消防団や自主防災組織等の育成強化	77	21.5
2. 洪水が発生した時の対処方法を学ぶ定期的な訓練	90	25.1
3. 洪水が発生した時の避難場所や避難経路が分かる地図などの情報提供	107	29.9
4. 河川の水位や雨量など危険を知らせてくれる情報	144	40.2
5. 学校等での防災教育	58	16.2
6. 避難道路や避難拠点施設などの整備	87	24.3
7. 雨水貯留や浸透舗装など、雨水が川に流れ込む量を少なくするための整備	88	24.6
8. はん濫しにくくするための河川の整備	133	37.2
9. 川の中に繁茂した草木や土砂などの撤去	95	26.5
10. その他	19	5.3



問 14 近年、全国各地で水害や土砂災害が発生しており、昨年の7月豪雨（西日本豪雨）でも、甚大な被害が生じました。これらの災害から感じることにあなたのお考えに最も近いものを選んでください。（回答チェックはいくつでも n=358）

項 目	人数(人)	割合(%)
1. 滋賀県では昨年の7月豪雨のような災害は起きない	17	4.7
2. 同じような災害は起こっても自分は被災しない	26	7.3
3. 災害は滋賀県でも起こるかもしれない	259	72.3
4. 災害に備えておく必要があると感じた	251	70.1
5. ハード整備さえすれば災害は起きない	5	1.4
6. ハード整備を上回る洪水が起こるかもしれない	154	43.0
7. その他	8	2.2



問 15 水害や土砂災害の被害を少なくするため、個人や地域ではどのようなことに留意する必要があると思いますか。御意見がありましたら記入してください。(抜粋)

【個人で留意すること】

- 年に1度でも学習の機会を持ち、意識する
- 土囊の準備
- 住居が、土砂崩れしやすい地区にあるため、土砂崩れについては敏感になっている。避難警告等があれば、必ず従うようにしている。
- 基本的にハード面の対策は行政に委ねざるを得ない。そうなると、財産ではなく、行き着くところは人命をいかにして自ら守るかになってしまうので、早め早めの避難と危険な行動を控えるよう努めるしかないと思う。
- これから家を建てる場合、浸水するかもしれない土地に家を建てない。
- あらかじめ避難する場所の確認とそこまでのルート、避難する際の基準を各自が確認することに尽きるのでは。
- 家族は助け合って避難しなければならないが、最後は自分は自分で守るしかないので、家でしっかりそのことは話し合いなければいけないと思う。
- まずはリスクを知ること。自宅、職場、よく立ち寄る場所などの危険を知る必要があると感じています。テレビやネットで情報を常に集めることも大切。
- 非常用品の確保、見直し
- 情報を早めに入手し、早めに行動を取る。また、日頃から地域の様子を観察、知っておくようにする。
- 特別警報が出たらすぐ避難。

【地域で留意すること】

- テレビなどのニュース頼みでなく、地域、自治会単位での連携や連絡網を強くすること。
- 地域でコミュニケーションがとりやすい環境づくりです。
- 小規模な地区独自の防災リスクの認識を高める。各地区で被害の起こりかたは違うことを認識する。
- 避難所であるコミセンなどは狭くて全員が避難できない。優先順位の高い高齢者を、地域住民が避難誘導したりするマニュアルなどを作る必要があるのではと感じる。
- 近隣の高齢者単身世帯などの把握、民生委員さんとの連携など
- すべての世帯で防災マップの確認をして現状を把握する。それに基づき避難のタイミングと方法を事前に決めておく。隣近所、知り合いなどでの緊急連絡網を大事にする。
- ・近隣の人たちとの日ごろのコミュニケーション
・避難訓練の実施
・地域における浸水想定区域の『現地確認ツアー』の実施
- 自治会や自治連合会の加入・未加入に問われない防災組織の育成。

【その他】

- 地球温暖化の影響か、災害規模が年々大きくなる傾向がみられることに対し、ハード対応には限界を感じる。災害対策は事前準備より事後回復に力を注ぐほうが有効とも考えられる。
- 防災も大事だが、減災対策も重要課題として考え、今、何ができるかが必要と思います。
- まず、他人事と思う方を減らす為、それぞれの地域で過去に発生した災害の見える化を行う。やはり天災は過去の実績を後世に伝えない限り風化してしまう為である。生まれ育った名古屋の場合、毎年、台風のシーズンになると伊勢湾台風時の被害や対策の話が行政からあり、風化させず、防災意識を高める事を継続している。
- 「警戒レベル」というわかりやすい指標が作られたにもかかわらず、認知されていない。まずは、警戒レベルなど、災害に関する情報をしっかり認知させることが重要である。
- 河川改修と堤防の強化
- 集合住宅のため、地域コミュニティを密にすることが必要だが、集会での意見では、集団での行動を避けるために集合住宅に居を構えている人が多く、密にすることをできるだけ拒絶している。よって、条例など半ば強制的な行動を起こさなければならぬ規則も必要かと。